

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名		鹿島市立鹿島小学校					
1 前年度 評価結果の概要		【①学力の向上】各種調査結果から、本校児童の実態として、自分で考えて自分で行動するという主体性がやや低いことがわかった。教師の問いに答える受動的な学習から自分で問いを見つけ、解決しようとする主体的な学習への転換を図る必要がある。本年度は、児童の学ぶ意欲が高まる授業づくりを研究し、主体的に学ぶ児童を育てていきたい。 【②いじめ防止】「いじめはどのクラスにも起こりうるもの」という意識のもと、高いアンテナを張り、いじめの早期発見・早期対応に努める必要がある。そのためには、児童の安らぎの場となる学級づくりを行い、心に響く道徳授業や学級指導の充実を図る。本年度も、定期的に学級経営会議を開き、組織としての学級経営支援を行ってきたい。 【③特別支援教育の充実】特別支援教育Coを中心に、組織としての支援体制づくりをさらに強化していく必要がある。また、支援を必要とする子どもにとって分かりやすい授業は全ての子どもにとって分かりやすい授業であることを意識し、通常の学級においても特別支援の視点を生かした環境設定・指導の工夫を行っていく。 【④危機管理】前年度は、鹿島高校生や地域との連携による避難訓練を実施することができたため、児童の防災意識を高めることができた。本年度は、児童を取り巻くあらゆるリスクを想定し、危機の未然防止、危機発生時の迅速かつ的確な対応、再発防止など、普段の生活における教職員の危機管理意識や実践力の向上を図る。					
2 学校教育目標		いのち輝く 鹿島っ子の育成～キラ、ニコ、ドンの鹿島っ子～					
3 本年度の重点目標		①学力の向上 ②心の教育の充実 ③健康教育の推進 ④生徒指導と安全教育の徹底 ⑤特別支援教育の推進					
4 重点取組内容・成果指標		5 最終評価					
(1)共通評価項目							
重点取組			最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と 共通実践	●学力向上対策評価シートに 示したマイプランの成果指標を 達成した教師を75%以上にする。	・マイプランの一覧を作成し、校 内研修の一部で紹介し、マイプ ランを共有する。 ・定期的に校内研修のはじめの 時間をふり返りの時間に設定す る。	B	・校内研究の始めの時間を活用し、マイプランを想起したり ふり返ったりする時間を設けたり、学年グループでの話合い の時間を設定し、意見の共有をしたりすることができた。しか し、意識の持続化に関しては課題が残る。	B	・先生方の共通理解を軸に、振り返りの時間を設定されているのはとても良い。 ・学力向上の5つのポイントが明確に示され、セルフチェックをする時間の確保も工夫されている。意識の継続化は 難しい面もあるかと思うが、持続させるためには周囲のサポートが必要な先生もいらっしゃるかもしれない。そうい う意味での共有は教師間ではどうしているか。 ・意識の持続化の問題は、当初より予想できたのではないかと。目指す授業を継続して意識できる方法を、計画段階 より組み込む必要があると思う。
	○児童の学ぶ意欲が高まる 授業の実践（校内研究の充 実）	○国語科を中心に授業づくりに 関する研修や研究授業を行 い、児童アンケートにおいて、 「クラスで落ち着いて学習がで きている」と答える児童の割合 を80%以上にする。 ○授業づくりのステップ1・2・3 を意識し、ステップを1から2 へ、2から3へ上げることで できる教師を80%以上にする。	・事前、事後の研究の充実を回 り、児童の興味・関心を高める 授業づくりを探る。 ・授業づくりのステップ1・2・3を 継続して意識できるようセルフ チェックタイムを2ヶ月に1度設け る。	A	・児童の興味・関心を高める授業作りに関しては、学校評価 において「良くできている」「できている」と解答した職員が 100%であった。「クラスで落ち着いて学習ができている」と答 える児童の平均も88%で、目標を上回る結果となった。 ・授業作りのステップ1・2・3のセルフチェックにおいても、平 均得点が7月の8.3ポイントに対して、11月は9.8ポイントと向 上した。得点が向上した。またはそのまま推移した職員は全 体の92%で、授業作りのステップを意識した授業を行うこと ができていると考えられる。	A	・限られた時間の中で効率的な研修になるように工夫をされている。子どもの意欲を高めるために、先生方の意識 が高まっていることが伺える。 ・長期化となったコロナ禍の大変な時に、工夫を凝らした授業の取組は素晴らしい。 ・子どもたちにわかりやすい授業になるよう工夫して頂いていると感じている。 ・学力向上が本校の一番の懸念事項だと思う。私たち外部から見る人間は、どうしても県学習状況調査と比較して しまう。結果を見るとかなり厳しい状況である。原因究明と今後の具体的方策を考えないといけない。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命 を尊重する心、他者への思 いやりや社会性、倫理観や 正義感、感動する心など、豊 かな心を身に付ける教育活 動	○命や人権について考える授業 や集会を行い、保護者アン ケート「学校は心の教育や命 の大切さなどを熱心に指導し ている」において86%を目指 す。	・友達の優しい言動を見つけた ら葉っぱに記入して貼っていく 「やさしさの木」の取組を年間通 して行う。 ・12月に「ふれあい道徳」を設定 し、保護者と一緒に考えてもらう 場面を設定するなど、参加型の 授業づくりを行う。	B	・「やさしさの木」の取組では友だちの優しい行動に目を向け ることで、2学期の振り返りで「友だちに嫌なことを言ったりし たりしない。」「児童は81%、自然のものや命あるものを大切 にしている。」「児童は94%と高い数値となった。12月からは、他 学年の優しい言動を見つめる「やさしさの花」の活動を始め た。このような活動から、保護者アンケート「学校は心の教育 や命の大切さなどを熱心に指導している」において91%と なった。	A	・取組の内容に熱心さが伝わってくる。自ずと結果もついてくると期待。 ・ほとんどの子が優しい気持ちを持っている。しかし、使ってはいけない言葉は、きつく注意する必要がある。また、 言葉のキャッチボールができない子もいる（「おかえりないさい」⇔「ただいま」、「行ってらっしゃい」⇔「行ってきます」 など）。日常会得しておくべき言葉が身についていなくて欠如している。言葉が不足している子が増えてきたように 感じる。 ・「命」を大切にする教育実践が子どもの「心」の育成に繋がっている。 ・「キラニコドンの鹿島っ子」の紹介により、「やさしいことをする」ことの良さを子どもたちが感じていると思う。子ど もたちにわかりやすい取組だと大いに評価したい。
	●いじめの早期発見、早期 対応体制の充実	○年2回(5月、10月)、心のアン ケートを実施し、「学校が楽し い」と答える児童の割合で80% を目指す。	・困り感や侵害意識のある児童 を把握し、早期発見、早期解決 を図る。 ・教育相談週間を設け、児童一 人ひとりの思いを受け止める。	B	・10月のこころのアンケートでは、「学校が楽しい」61.1%と少し減 っている。12月のよりよい学校づくりアンケートでは、「どの 友達にも好き嫌いなく接している」85%である。SCとの教育 相談につなげたり、1日観察日を設置して多くの視点からの 見取りをしったりすることでいじめの早期発見、早期解決に取 り組んだ。いじめの訴えがあった場合は担任がすぐに聞き取り、 学年や管理職とも連携し、組織的に対応することができた。	B	・「こころ」の問題に対して熱心で連携された取組が伺える。SCの先生の授業はどの学年でも期待したい。 ・いじめを受けた子どもに対して寄り添う対応が大切だと思う。また、いじめた子どもの支援も必要になってくる。「学校が楽しい」という割合 の減少の要因と学校の取組を検証し、来年度に生かしていただければと思う。多忙な中で子どもたちのために組織的に取り組まれ、情報共有 も十分になされている。教師同士が支え合う姿勢は、子どもたちに範と目に見えてきていると思う。 ・いじめは早期発見、早期解決が何よりも大切。そのための全職員の連携と対応がなされていることは良いことだ。 ・数値指標としては目標を下回る結果となっているが、学校としては取組を十分に行っていると感じている。早期発見・早期解決に向けて継続 的な取組を期待したい。 ・自分の方へ目を向けさせたいと思う子どもが、少し方法を間違っている行動もあると思う。子どもの気持ちを引き出す教師の寄り添い方も必要。

	◎目標達成に向けて努力しようとする態度の育成	◎「一事實行」に意識して取り組むことができる児童を85%以上にする。	・1年間毎日続けて取り組むめあてを全児童に決めさせ、振り返る習慣をつけて、自分のめあてを日々意識させる。 ・取り組み続けている児童を紹介する場を設け、取り組みが続かない子へも声かけを行っている。	B	・「一事實行」に意識して取り組むことができていると答えた児童の増減はあるものの、多くの児童が年間を通して継続して取り組むことができています。今後も声かけをしていく。 ・それぞれの学年での取り組み方について取りまとめ、全学級の担任の先生に報告することができた。有効な手立てについては、来年度の参考にしていただけるよう、確実に引き継ぎを行いたい。	B	・「一事實行」については、鹿島小学校が一番よく取り組んでいる。「継続は力なり」で声掛けや励ましを続けていくと、子どもたちも頑張ると思う。保護者等へ話す機会があれば、「田沢義舗」や「一事實行」について話をしてもいい。 ・意識的な声かけ、クラスが学年の枠を越えて学校全体として対策が取られている。 ・意識が高い子どもは問題ないが、意識の継続が苦手な子どもへのフォローが重要だと考える。 ・子どもの「一事實行」に対して、家庭とも連携し、同じことを学校と家庭で実現できれば、子どもたちも意識するのでは。
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒60%以上 ●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒80%以上	・車による送迎を控えるように保護者に呼びかけ、登下校による歩行時間を確保する。 ・休み時間の外遊びを促すために、県のスポーツチャレンジを活用する。学校独自の「鹿島っ子チャレンジ」の取り組みで表彰をするなど、児童の意欲を引き出す。 ・給食センターから講師を招き、食育指導をする。 ・給食集会を開き、児童が食を大切に考える場を作る（食に関するアンケート2回実施）。	B	・授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童は93%であった。 ・「健康に食事は大切である」と考える児童は100%であった（5年生対象）。 ・縦割り時間に「縦割りなわとび大会」を企画することで全校児童がスポーツチャレンジに取り組み、スポーツチャレンジに関心を持つきっかけを作った。 ・「残菜0週間」を行い、1回目比べて残菜の量が減り、給食を残さず食べようとする意識を持たせることができた。 ・スポーツチャレンジの取組に参加する児童がだんだん減っていたので、継続して取り組む意欲を高める必要があった。 ・給食センターから招いた講師による食育指導で、子どもたちも食に対して関心を高めた。	A	・運動やスポーツの時間も大幅に増加しており、学校全体が運動能力の向上に意識して取り組んだ成果が出ている。 ・平日の夕方や土日以外で遊ぶ子どもたちをあまり見かけない。家の中で遊ぶことが多いのではないかなと思う。学校で運動する時間を増やしていただくことは、子ども対の成長にはとても大事なことだと思う。 ・小さいときから積極的に外に出て遊ぶことが大事。これには、家庭の協力が必要。学校でも休み時間、特に昼休みは外に出て遊ぶことをこれまで以上に勧める必要がある。 ・専門職講師による授業やアンケートなど今後も継続して欲しい。 ・朝食摂取の大切さを子ども自身が家庭に持ち帰る意識にも期待したい。 ・運動習慣の定着と食育への取組について、工夫して実施していただいていると感じている。 ・朝でも昼休みでもスポーツに取り組み、目標を決めて挑戦させる、頑張りを表彰するなど、子どもの運動意欲を喚起する取組ができないか。 ・意欲の持続性に課題が残っている。最初の計画段階から、意欲を持続させる方法を織り込むことが必要。
	○よりよい生活習慣を求める児童の育成	○生活習慣の改善が見られる児童60%	・「早寝・早起き・朝食・メディア（使用時間）・家庭学習」の5項目について学期に一度100点運動を行い、生活リズムの改善を意識させる。	A	・生活習慣の改善が見られる児童が62%であった。 ・2回目の生活リズム100点運動では、前回低い評価であった「メディア」を重点取組目標とし、全学級で指導をしたところ、5つの学年で改善が見られた。特に1回目で評価の低かった6年生については、20%の改善が見られた。	A	・早寝早起き朝ご飯は最大重要事項である。6年生でも午後9時半までに寝て、午前6時に起き朝ご飯を食べると良い。 ・中間評価を生かして、重点的な取組が効果として表れたことは素晴らしい。 ・メディアについてはどの学校も課題になっている。今後も継続的な指導を。 ・改善に繋がる指導が確実に着実にされたことは素晴らしい。メディアの使用時間については家庭との連携が重要。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定（毎週水曜日）及び確実な実施（会議等は16:45に終了する） ・教職員の時間外勤務について1ヶ月あたり前年度比5%削減する。 ・会議資料の事前配付と提案時間の設定 ・積極的な未然防止指導と保護者への確実な説明等、迅速かつ組織的な対応	A	・定時退勤日は、自分で目標退勤時間を設定し、ホワイトボードを使って可視化することで、時間を意識した業務遂行ができるようになってきた。時間外勤務の年平均が、昨年度は31.8時間だったが、今年度は30.2時間であった（5%削減）。 ・県PTAからの通知文を配布し、保護者からの時間外電話を18時までと示したことも時間外勤務の減少につながった。 ・マチコメールやHPなどを活用し、迅速かつ適切な情報発信を行うことが、保護者の信頼につながり、働き方改革の一環になると感じた。 保護者アンケート「学校は開かれた学校運営をしている」97%	A	・職員の時間外勤務が少しずつ削減できていることは良いことである。さらに努力をしてほしい。 ・保護者からの電話を18時までとしたことはとても良かった。保護者も先生方も時間意識をもつことが大切。 ・「学校は開かれた学校運営をしている」97%とは、良い結果が出ていると思う。あとの3%は先生方が地域に Outreach することもあるのかなと思った。 ・情報発信の様々な工夫が97%という数字に表れている。保護者からの信頼が今後の学校と家庭の連携、共に子どもを育てるという地域の力につながっているのではないかな。マネジメントの成果である。 ・働き方改革が一番進んでいるのが教職員の勤務時間だと言われている。しかし、色々な角度から効率化や時間外勤務の減少に向けた取組が出来たことは大いに評価できる。 ・学校業務の多忙化解消については、先生方が子どもたちと向き合う時間を確保するために重要。PTAとしても協力体制を築いていきたい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
重点取組				最終評価		学校関係者評価			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○基本的生活習慣の定着	○語先後礼のあいさつ、元気のよい返事、静かな廊下歩行、無言掃除ができるようになる教育活動	○語先後礼の挨拶や元気な返事ができる児童80%以上。 ○無言掃除ができる児童85%以上。 ○静かに廊下で過ごせる児童80%以上。	・全校朝会等で、前月の生活反省や実践的指導を行うことで実践への意識付けを行う。 ・全校挙げての挨拶運動を行い、その振り返りを自己評価させることで、自ら気持ちの良い挨拶への実践意欲を高める。	B	・親子挨拶運動、学級挨拶運動、生活委員会による挨拶運動、挨拶標語募集など様々な取組により、年度当初に比べて挨拶しようとする児童が増えてきている。しかし、アンケートでは、挨拶や返事ができていると感じている児童は75%であった。まだまだ不十分である。 ・「無言掃除」について動画を撮影して全校で指導を行ったことで自主的・自律的な実践意欲が高まり、85%を上回り十分に達成できた。 ・静かな廊下での過ごし方については、随時指導を行い、自律的実践意欲を高めた結果、80%目標を達成できた。	B	・地域での挨拶もコロナ休校開けと比べると良くなってきた。地域の人と子どもの意思の疎通が大事である。地域の人も何かにつけて子どもに声をかけることが必要だ。学校だけでなく、家庭、地域で、根気強く取り組みをしていかななくてはいけない。 ・「挨拶」を大きな目標として掲げ、そのために様々な取組が行われている。たとえば、数字に大きな変化はなくても継続していく、またはやり方を思い切って変えてみる。75%はきちんと挨拶をしているという視点の変換をすることも良いのでは。 ・家庭内での挨拶はどの程度できているのだろうか。挨拶はまずは家庭でのしつけ。PTAとの連携がもっと必要。機会あるごとにお便りかPTA新聞等で啓発したら更に良くなると思う。 ・最近大人も挨拶ができない人が多い。家庭内での挨拶、地域での挨拶など、大人や親が積極的に挨拶をしていく必要がある。こちらから挨拶をしても、返事が返ってこないことが多い。本人は言っているつもりでも、声として届かない。声に出して挨拶をする指導をお願いしたい。		
○安心・安全な学校づくり	○危機管理意識の高揚	○危機管理マニュアルの周知徹底及び施設設備や教育活動の安全チェックを定期的に実施する。 ○児童の交通事故0をめざす。 ○避難訓練及びその事前指導等を通して児童に危機回避能力を身に付けさせる。	・年3回の避難訓練等の安全指導を強化し、教職員間の危機管理マニュアルを共通理解する。 ・防犯ボランティア、警察署、交通指導員との連携を強化し、情報を共有することで児童の安全を確保する。 ・登校の自己評価及び定期的な集団下校を実施することで、交通安全への実践的態度を養う。	A	・電子黒板を利用した視覚的な指導を実施し効果的な避難訓練を計画・実施することで危機回避能力を身に付けさせることができた。地震・津波対応(1学期及び防災の日に合わせて実施)、火災対応、不審者対応。また、「不審者侵入」に関わる職員研修会を実施し、全職員に危機回避マニュアルの共通理解が図れた。 ・登校班長への腕章の配布や毎月の登校状況のふり返りをさせた結果、意識が高まり危機回避能力を身につけつつある。今後、各家庭やボランティア、警察署、交通指導員と一層連携を強化し、職員全体で歩調を揃えて指導していきたい。	A	・登校班長の腕章配布は大変良かった。班長としての自覚が見られる様に感じる。 ・毎朝の登校状況の振り返りは良いアイデア。一目瞭然である。また、集団登校の意義と必要性についてもPTA総会や新聞等で伝えられ良いと思う。 ・防犯ボランティアの方はよく頑張っていたので、入学式やPTA総会で保護者に紹介されたいと思う。 ・コロナ対応の中、工夫をしながら取り組まれたことが伺える。計画の修正、変更も多かったと思うが、先生方の危機管理の意識の向上につながったのではないかな。 ・体験指導をもとに、地域と一体化した実践を継続する。・登下校の見守りや各種訓練など、学校と地域が協力して取り組んでいると感じている。 ・自然災害、不審者や交通事故問題と課題は山積みだが、地域の方々と協力して多くのことに取り組みられたことを大いに評価する。 ・校内の防犯カメラの死角の確認、またカメラの増設が必要でないか検討を。通学路の防犯カメラの設置についても市に要望していきたい。防犯ボランティアの募集も継続して行っていく。		
○特別支援教育の充実	○個に応じた指導、支援の充実	○個別的教育支援計画・指導計画、支援シートの作成100%。 ○特別支援教育に関する専門性の向上。 ○情報共有を定期的に行う(月2回)。	・個別的教育支援計画・指導計画、支援シートの作成のための研修を行う。作成する期間を決めて取り組む。 ・年4回、特別支援教育に関わる研修会を実施し理解を深める。 ・校内支援委員会を中心に、連絡会や学級経営会議等でも定期的に情報共有の機会を設ける。連絡会では、テーマを決めて行う。	B	・個別的教育支援、計画指導計画については、必要な児童については作成を行った。支援シートについては、来年度への引き継ぎに向けて、作成しているところである。研修会は、全職員対象は年2回しか行えなかったが、校外の研修会への参加の呼びかけを行った。支援チームで、支援を要する児童に対する面談や緊急のケース会等を行い、保護者へのサポートをしたり校内の支援体制を整えたりすることを行った。しかし、情報共有をして学校全体での取組にはまだ至っていない。支援チームを中心に、支援体制を充実させていきたい。	B	・特別支援教育の拠点校ようになってきたが、専門性を必要とするので、校内研修等で交流を図れば良いと思う。また、児童の親との交流を大切にしたいと願っている。 ・個別の支援を必要とする児童が多いため、十分な支援をすることは難しいかもしれない。しかし、先生方は一生懸命対応をなされている。保護者へのアプローチも情報共有しながらされている。今年度共有した情報を来年度へ引き継ぎ、継続的な支援へと繋げていただければと思う。 ・限られた時間の中で、保護者へのサポートなど支援体制は大変だと察するが、先生方の共通理解のもとで、今後も支援の向上と充実を期待したい。特別支援学級や通級教室など横のつながりの体制づくりが重要だと考える。 ・個別の支援は、それぞれの子どもに合った指導・支援が必要なので、職員の数も必要。また、校内研修会等でのスキルの共有も必要。		

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>【①学力の向上】・・・主体的に学ぶ児童を育てるために、それぞれのクラスで工夫した授業が展開され、児童が真剣に学習に取り組む姿勢が見られるようになった。しかし、一層基礎基本的な学力の定着を図るために、指導法の形態やICT等を工夫して、実効性のある手立てを考え、実践していく必要がある。</p> <p>【②心の教育の充実】・・・コロナ禍においてストレスや不安を抱えている児童が多く見られたが、組織的な取組の成果が表れ、早期発見、早期対応、複数体制による支援ができています。来年度も、学級経営の安定を図ることを第一に、児童一人一人の心に寄り添った支援・指導を行っていく。</p> <p>【③健康教育の推進】・・・効果があつたスポーツチャレンジや生活リズム100点運動を継続させながら、体育委員会を中心に年間を通した体力向上の取組を行う。</p> <p>【④生徒指導と安全教育の徹底】・・・今年度様々な取組を行い、「挨拶」を強化してきた成果が少しずつ表れている。来年度も家庭や地域と連携しながら、挨拶指導の徹底を図っていく。</p> <p>【⑤特別支援教育の推進】・・・学級内の特別な配慮を要する児童について、学校全体で見守っている校内支援体制づくりが必要である。そのためには、専門的な知識や効果的ななかかわり方、合理的配慮の在り方などについて全職員がスキルアップするための校内研修の充実、情報共有の場が必要である。</p>
----------------	---